



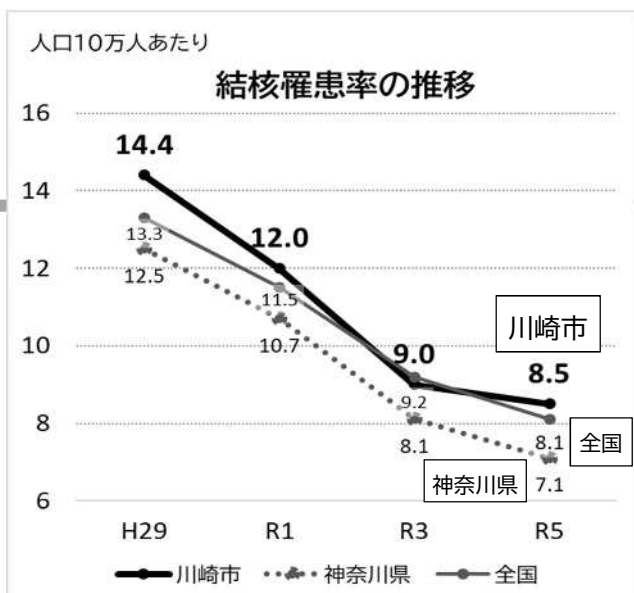
多摩区結核通信



「結核」とは？…未だ「2類感染症」として取り扱われる病気です！

呼吸器感染症のひとつで、昔のものと思われがちです。しかし、今も世界で毎年 100 万人以上が命を落としており、慢性的なパンデミックが続いています。

2023 年の結核罹患率は、川崎市で 8.5(人口 10 万対)と、前年(8.2)に比べて増加しています(日本全国では 8.1)。結核患者の見逃しは、重症化だけでなく、集団感染につながりかねません。そのため、未だ感染症法では 2 類感染症として管理されています。



重症化や蔓延を防ぐためには、毎年の健診や体調不良時の医療機関の受診による早期発見・早期治療が欠かせません。



○最近の多摩区の結核患者の動向○

・昨年の多摩区については、患者の年齢は20代～90代まで幅広く、感染力のある(他の人にうつす可能性がある)状態で発見された方が複数おられました。



シールぼうや

・中高年層の発見のきっかけは、呼吸苦などの体調不良による救急搬送や他疾患の治療時に発見されるなどです。呼吸器症状が長引く際は結核の検査(胸部 X 線検査、喀痰検査等)をお願いします。

・若年層は職場健診での発見が多い傾向です。毎年の事業所健診の徹底や、要観察・要精検の受診勧奨、結果把握に努めましょう。

免疫が低下する治療に注意！

ステロイドや生物学的製剤による治療で免疫が低下し、結核を発症するケースがあります。検査結果を待つ間に悪化し、排菌する例もありました。

治療開始時から、結核の感染が無いかなどの血液検査や、こまめな胸部 X 線検査、必要時には喀痰検査を実施し、早期発見・早期治療に御協力をお願いします。

多摩区役所地域みまもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所)

衛生課 感染症対策係 結核担当

TEL:044-935-3272

FAX:044-935-3394